

令和6年度 第3回学校運営協議会

日時：令和7年3月5日（水）

場所：大阪府立豊中高等学校能勢分校 会議室

出席者：9名

能勢分校会議室において、学校運営協議会を開催し、今年度の総括と来年度に向けての取組みを確認しました。

内容

1. 准校長挨拶

- ・令和7年度選抜入試があった。ひきつづき新入生の生徒の数をあげるために何ができるか、能勢分校だからこそできるユニークな学校をめざしたい。遠くてもここなら行きたいと思えるような学校づくりをしたい。

2. 協議

- （1）学校教育自己診断結果について
- （2）授業評価アンケート結果について
- （3）各系列の取り組みについて

委員からの意見等

- ・クロームブックの活用は学校外での予習復習でも使えるのか、勉強する場が自宅以外でもあるのか。
 - 可能。校内では主に、より利便性の高いロイロノートというアプリケーションを活用している。
 - 端末を用いて、宿題や復習の内容の確認や課題等の返却が可能。
 - 学校での勉強の場として特定期間に自習室を用意している。
- ・里山起業コースのビジネス実践、起業家教育プログラムについて内容は。
 - 企業が新しいビジネスを作るための段取り、例えばアイデアの出し方やお金の取り方、どういうプロセスを経たら企業に結び付くのかを学ぶプログラム。最後は東京で報告をした。
- ・後輩に伝える場面があっているのでは。アウトプットしてはじめて学びになるし、外で学んできたものを学校内で発表する姿を後輩が見るのも好循環につながると思われる。
- ・起業家教育プログラム実施校に選ばれたのは初めてか。
 - このプログラム自体、初めて活用した。
- ・能勢ささゆり学園で発表する機会があればいいのでは。発表する側も聞く側もプラスになると思う。高校生からの発表というのがいい。
 - 毎年発表する機会があるので、活用したい。
- ・課題探究の発表会に能勢ささゆり学園を招待したらいいのでは。
 - 能勢ささゆり学園も含め、引き続き多方面に案内をしていく予定

- ・授業アンケートの授業分析で数値が下がった要因は何が考えられるか。勉強が難しくなるなかで生徒同士が教えあう仕組み、つまり人に教える「アウトプットする」という活動で習熟度が上がってくると思う。

→自身の勉強に対する苦手意識が特に高く感じる。2・3年生は選択科目が増え、各授業の生徒数が少ないという状況があるため、授業意識が高いのではないかと思われる。1年生の自習室の活用率は高く、数値が低く出ているのがむしろ不思議に思う。

(4) 学校経営計画及び学校評価について

准校長より説明 資料 「令和7年度学校経営計画概要」

委員からの意見等

- ・予算確保のために生徒たちがプレゼンする案はとてもいいことだと思う。お金がかかることを考えるのも学習。引き出すためにはどうしたらいいかも学習だと思う。疑似的体験するのは大切なことである。自分たちがやってきた成果物がきれいに形になるのはある程度の成功体験を味わえることになる。
- ・TV番組などに取り上げてもらうことはできないか。最近は高校の活動が紹介される番組もある。
→本校でも過去にTVに出たことで学校のHPの閲覧回数が跳ね上がったという事実はある。
- ・観光促進動画でE-bike 関連の動画を作るのに参加した。最後はちゃんと目に見える形で残す、社会に何かを残すという経験はとても大切で、教育的意義があると実感している。計画を立てる、予算を取り、発表する、何かを得られる、という流れ、つまり入口から出口までをサポートできる体制をつくるのが大切なことだと感じる。

(5) 来年度にむけての取組みと提言

① 入学者数の確保。

中学生へのアプローチとして、高校生が中学生へ伝える機会をできるだけ多く設ける。

② 里山起業コースのビジネス実践について、アウトプットする機会を設ける。

③ 授業でのクロームブックの活用、授業外での学習。

④ 課題探究学習に関する予算確保までの道のりを経験する取組み。